

## 2009 年 1 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の間に 当院において乳癌からの子宮転移の画像および病理検査 を受けられた方及びご家族の方へ

—「乳癌からの子宮転移における画像所見に関する記述的研究」へのご協力をお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、研究科長と病院長の許可を得ています。

**研究責任者** 川崎医科大学 放射線診断学 講師 神吉昭彦

**研究分担者** 川崎医科大学 放射線診断学 教授 玉田勉

川崎医科大学機能・代謝画像診断学 教授 福倉良彦

### 1. 研究の概要

乳癌は女性に最も多いがんであり、主要な死亡原因の一つです。進行すると骨、肝臓、肺、脳などに転移しますが、子宮への転移はまれです。その画像における特徴を整理し、病理所見や臨床所見と対比、検討することを目的とした多機関で行われる後ろ向き観察研究です。今回の研究によって、乳癌の子宮転移の早期発見・早期治療とそれによる予後の改善に寄与することが期待されます。

### 2. 研究の方法

#### 1) 研究対象者

2009 年 1 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の間に川崎医科大学附属病院および共同研究機関で乳癌からの子宮転移の画像および病理検査を受けられた方を研究対象とします。

#### 2) 研究期間

倫理委員会承認日～2026 年 12 月 31 日

#### 3) 研究方法

上記の研究対象期間に乳癌からの子宮転移の検査を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに生検ないし子宮摘出術により、乳癌の子宮転移と診断された方のデータを選び、乳癌の子宮転移の画像的特徴を評価し、病理組織所見や転移、再発の有無、無病再発期間、生存期間、合併疾患の有無との関連性について調べます。

#### 4) 使用する情報の種類

臨床情報：年齢、性別、主訴、生活歴、病理結果、転帰（治療効果と予後）等

画像：位置、サイズ、均一性、発育形式、MRI の信号強度、みかけ上の拡散係数 等

#### 5) 外部への情報の提供

この研究に使用する情報は、以下の共同研究機関に提供させていただきます。提供の際、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し、提供させていただきます。

京都府立医科大学 放射線診断学  
東北大学病院 放射線診断科  
筑波大学 医学医療系 放射線診断・IVR 学  
岐阜大学 放射線科

## 6) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学放射線診断学実験室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

## 7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2026年10月31日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

## <問い合わせ・連絡先>

岐阜大学医学部附属病院 放射線科

氏名：周藤壮人

電話：058-230-6000

E-mail：suto.taketo.k1@f.gifu-u.ac.jp

## <研究組織>

**研究代表機関名** 川崎医科大学

研究代表責任者 川崎医科大学 放射線科 講師 神吉昭彦

**共同研究機関・研究代表責任者**

京都府立医科大学 放射線診断学 助教 高畑暁子

東北大学病院 放射線診断科 助教 影山咲子

筑波大学 医学医療系 放射線診断・IVR 学 准教授 齋田司

岐阜大学 放射線科 助教 周藤壮人

## 3. 資金と利益相反

この研究は、学内研究費を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、岐阜大学利益相反専門委員会に申告し、適正に管理されています。